

8/13(土) まいど！ 倫理号が、先祖伝来の家族の集うお盆です！
全国でも集うお盆。皆人に合わせる家庭愛和です

孝も愛もアホ一鳥

2022. 8. 13～8. 19

今週の

倫理

8月のテーマ | 家庭愛和

1294号

倫理法人会が他の経営者団体と大きく特色を異にするのが「家庭愛和」という実践目標をスローガンに掲げていることではないでしょうか。

一般的には「仕事」と「家庭」は別々のものであり「仕事重視」か「家庭重視」という構図で描かれることが多く、並び立つものではないとされています。

昭和の高度経済成長期には「モーレツ社員」といった流行語にも代表されるように、働けば働くほど給料が増えるため、家庭を顧みず豊かな生活を目指して働くことを美德とした時代がありました。まさに「仕事は仕事、家庭は家庭」です。

確かに個人に与えられた二十四時間という時間をどう使うかと考えた場合、同時進行ができないのであれば、どちらかを優先しなければならぬという状況が必然的に生まれます。ゆえに「仕事重視」か「家庭重視」という考え方が生じるのも無理はありません。近年では、その間をとって「どちらにも重視」という考え方もあるようですが、裏を返せば「どちらも中途半端」となる危険性も否めません。

倫理法人会が提唱する生活法則「純粹倫理」における「家庭愛和」は、「仕事の時間を抑えて、家庭での時間を増やしましょう」というものではありません。「人のほんとうの喜びは働き」にあるのであって、その働きをより一段と良きものにするためには、活力の源である「家庭を明るくなくやかにする実践」に取り組むことは不可避のこと



家庭愛和は「合わせる」 ことから始まる

となります。つまり「家庭あつての仕事」であり、「仕事か家庭か」という思考ではないのです。

しかし夫婦はもともと異なった環境に生まれ育った一組の男女であり、親子の関係も血のつながりはあっても世代間の隔たりがあります。考え方や行動に違いがあることからの衝突は避けられないもので、一口に「家庭を明るくなくやかにする実践」と言っても難しいものです。

この状況を打開するために推奨したいのが「合わせる」という実践です。これは、親子や夫婦といった家族に限ったことではなく、様々な人間関係に当てはまるものです。特に関係性が近い家族には効果てき面と言える実践です。

相手に合わせてもらおうとすれば、少なくとも自分を含む二人以上の人間の心意や行為がピタリと一致しなければならず、他者の変化を待たなければなりません。しかし、自分が相手に合わせるのであれば、自分が単独で他者の思いや動きに合わせてよいのですから、思い通りにならない他者の心や動きの変化を待つ必要がありません。どちらが容易なことかは一目瞭然です。

鍵となるのは、無理に合わせてしようとすることはなく、相手の発したものを「受けきる」ということです。この「受けきる」とが今までの経験や先入観を超越した、心の底からにじみ出る「明朗」の源であり、その「明朗」こそが「家庭愛和」にとって最も大切なことなのです。